

2024年11月14日

静岡市葵区鷹匠一丁目1番1号
静岡鉄道株式会社

静鉄グループ 2024年度 中間連結決算概況について

◇中間連結決算概況

当中間連結会計年度においては、自動車販売事業での高価格帯車種の販売やビジネスホテル事業でのインバウンド需要の高まりや客室稼働が好調であったこと、また昨年10月に大阪心斎橋で開業したホテルが通年営業したことに加え、スーパーマーケット事業や観光売店事業において一品単価が上昇したことなどから、当中間会計年度における売上高は増加し、営業収益は863億8千5百万円(前中間期比 3.4%増)となりました。

利益面では、各事業売上高の増加に伴う粗利益の増加などにより営業利益は33億6千5百万円(前中間期比 19.8%増)、経常利益は31億7千2百万円(前中間期比 22.8%増)、中間純利益におきましては、23億2千7百万円(前中間期比 37.7%増)となりました。

なお、営業収益および各段階利益において、中間連結決算の過去最高を更新しました。

◇2025年3月期の見通し

2025年3月期の業績予測につきましては、乗合バス事業で2024年10月より運賃改定を実施したことに加え、2025年1月にはスーパーマーケット事業において拡大を進める小型店舗「KITE-GO」5店舗目を葵区八幡町で開業するほか、不動産販売事業では事業用不動産の売却を、ビジネスホテル事業では引き続き好調を見通していることなどから、営業収益は1,792億7千2百万円(前期比 5.4%増)を見込んでいます。

一方、利益面では、最低賃金の引き上げ等による人件費の増加や、電気料単価の上昇などによる水道光熱費の増加、金利の上昇に伴う支払利息の増加など、事業を取り巻く様々な要因による費用増加を見込んでいます。各事業売上の増加に伴う粗利益の増加により、営業利益は43億4千3百万円(前期比 17.7%増)、経常利益は38億4百万円(前期比 15.3%増)、当期純利益は32億1千3百万円(前期比 2.0%増)を見込んでいます。

当社グループは、今後もお客様に安全・安心・快適をお届けする為の取り組みをグループ全体で推進するとともに、生活ニーズの多様化に応える事業活動を実施してまいります。

<添付資料>

- ・静鉄グループ 2024年度中間 事業セグメント別概況
- ・静鉄グループ 2024年度 中間連結決算指標

この件のお問い合わせは下記へお願いいたします

経営管理部

□グループ事業課:古川(ふるかわ)、花崎(はなざき)
□直通電話:(054)254-5116
□F A X:(054)273-0658
□Eメール:group@shizutetsu.co.jp

総務部

□総務課:國松(くにまつ)
□直通電話:(054)254-5129
□F A X:(054)255-8816
□Eメール:m.kunimatsu@shizutetsu.co.jp

静鉄グループ 2024 年度中間 事業セグメント別概況

当社グループは、交通事業、流通事業、自動車販売事業、不動産事業、レジャー・サービス事業、建設事業の6つの事業セグメントで構成されています。事業セグメント別の概況は以下のとおりです。

・交通事業

鉄道事業では、2024年3月から3ヶ月間にわたり、TVアニメとの企画を実施してラッピング電車を運行するなど、沿線の盛り上げりに努めました。輸送人員は4,398千人(前中間期比2.9%増)となり、前中間期と比べて旅客運輸収入が増加しました。

索道事業の日本平ロープウェイにおいては、更なる安全性の向上と安全輸送を目的に、2024年5月末から7月にかけて約1ヶ月間、ロープウェイ営業を休止し設備更新工事を実施いたしました。

乗合バス事業のしずてつジャストラインでは、人流の緩やかな回復により、輸送人員が14,058千人(前中間期比2.4%増)となり、前中間期と比べて乗合運送収入が増加しました。また、2024年9月には、中部運輸局長より一般乗合旅客自動車運送事業の上限運賃変更の認可を受けました。

タクシー事業の静鉄タクシーでは、2024年6月から約6ヶ月間、交通の不便なエリアや共働き世帯への移動手段の提供を目的に、デジタルチケット販売の実証運行を行いました。

以上の結果、交通事業の営業収益は、71億4千8百万円(前中間期比4.4%増)となりました。

・流通事業

スーパーマーケット事業の静鉄ストアでは、2024年5月に、高効率機械を導入し、通常店舗で行われる精肉部門の商品仕入・加工・包装作業を集約化することで、生産性向上と人手不足を同時に解消し、安定した商品供給を実現する「しずてつストアプロセスセンター」を藤枝市に開業いたしました。また、2024年7月には大岡店をリニューアルオープンし、品揃えを充実させるとともに、青果・精肉・一般食品をお値打ち価格で提供することに努めております。販促強化や小型店舗「KITE-GO」が4店舗に増加したこと、また一品単価の上昇などにより、前中間期と比べて店舗売上が増加しました。

食堂売店事業の静鉄リテイリングでは、2024年5月にグループ初進出となる北海道札幌市にて、和菓子と静岡茶のカフェ「あん&茶と」を開業し販路拡大に努めたことなどにより、前中間期と比べて観光売店事業売上が増加しました。

以上の結果、流通事業の営業収益は、241億4千3百万円(前中間期比3.8%増)となりました。

・自動車販売事業

自動車販売事業のトヨタユナイテッド静岡では、新車販売台数が7,111台(前中間期比△836台)となり、高価格帯車種の販売等による台当たり単価の上昇などにより、新車売上は増加いたしました。また、中古車販売台数については、4,354台(前中間期比△453台)となり、市場高騰による台当たり単価の上昇などにより、中古車売上は増加しました。

自動車リース事業のトヨタレンタリース静岡では、保有台数およびリースU-CAR販売の増加により、前中間期と比べてリース売上が増加しました。

以上の結果、自動車販売事業の営業収益は、422億8千4百万円(前中間期比2.5%増)となりました。

・不動産事業

不動産販売事業では、新築建売住宅において「エバースクエア西脇」全7棟が好評のうち完売しました。また、静岡市内において新築分譲戸建の販売を開始したほか、横浜市戸塚区分譲マンション共同事業「ガーデングランデ横浜戸塚」の第二期販売を開始しました。

ショッピングセンター事業の静鉄プロパティマネジメントでは、館内の約30区画を対象とした大規模リニューアルを行ったことなどから、新静岡セノバ館内売上が増加しました。また、2024年7月から約3ヶ月間、劇団四季ミュージカル「キャッツ」静岡公演を記念したタイアップイベントを実施いたしました。

以上の結果、不動産事業の営業収益は、55億9千1百万円(前中間期比2.3%増)となりました。

・レジャー・サービス事業

ビジネスホテル事業では、2023年10月に開業した「静鉄ホテルプレジオ大阪心斎橋」をはじめ、前期に引き続き客室稼働が好調に推移しています。インバウンド影響などにより、全施設合算した平均客室稼働率は83.6%(前中間期比1.8pt増)となったほか、客室単価の上昇などにより、前中間期と比べて宿泊収入が増加しました。

情報サービス事業の静鉄情報センターでは、システム更改や導入などによるソフトウェア開発売上などが増加しました。

以上の結果、レジャー・サービス事業の営業収益は、61億7千1百万円(前中間期比23.8%増)となりました。

・建設事業

建設事業の静鉄建設では、葵区民間企業新社屋の建築工事などにより、建設事業の営業収益は、33億8百万円(前中間期比16.7%減)となりました。

2024年9月期 中間連結決算指標

◆連結決算概要

	2024年9月 中間	2023年9月 中間	前中間期比		2024年度 業績予測	前期比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
営業収益	86,385	83,506	2,878	3.4	179,272	9,160	5.4
営業利益	3,365	2,809	556	19.8	4,343	654	17.7
経常利益	3,172	2,583	588	22.8	3,804	503	15.3
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,327	1,690	637	37.7	3,213	62	2.0

(単位:百万円、%)

◆セグメント別営業収益

	2024年9月 中間	2023年9月 中間	前中間期比		2024年度 業績予測	前期比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
営業収益	86,385	83,506	2,878	3.4	179,272	9,160	5.4
交通事業	7,148	6,846	301	4.4	14,764	619	4.4
流通事業	24,143	23,251	892	3.8	47,408	58	0.1
自動車販売事業	42,284	41,269	1,015	2.5	85,944	1,640	1.9
不動産事業	5,591	5,467	123	2.3	14,831	3,513	31.0
レジャー・サービス事業	6,171	4,983	1,188	23.8	12,484	1,353	12.2
建設事業	3,308	3,970	△ 661	△ 16.7	8,373	1,126	15.5
内部消去	△ 2,262	△ 2,281	18	-	△ 4,535	849	-

(単位:百万円、%)

◆セグメント別営業利益

	2024年9月 中間	2023年9月 中間	前中間期比		2024年度 業績予測	前期比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
営業利益	3,365	2,809	556	19.8	4,343	654	17.7
交通事業	△ 197	△ 70	△ 127	-	△ 983	△ 271	-
流通事業	314	304	10	3.4	361	△ 166	△ 31.5
自動車販売事業	2,392	1,816	575	31.7	3,366	553	19.7
不動産事業	504	512	△ 8	△ 1.6	1,057	377	55.6
レジャー・サービス事業	350	48	301	626.7	382	199	109.0
建設事業	20	218	△ 197	△ 90.4	178	△ 101	△ 36.3
内部消去	△ 19	△ 21	1	-	△ 20	63	-

(単位:百万円、%)

※金額は百万円未満を切り捨て表示